

国際比較で見る

Science Technology Engineering Mathematics

—

理系女性のキャリアパス

日時 2018 11.24 (土) 13時~17時

場所 奈良女子大学 F棟5階 人間文化研究科大会議室

同時
通訳

主催 国立大学法人奈良女子大学
アジア・ジェンダー文化研究センター / 理系女性教育開発共同機構
共催 一般社団法人国立大学協会 / 奈良女子大学男女共同参画推進機構
国立大学法人お茶の水女子大学理系女性教育開発共同機構

プログラム

12:30 開場

13:00 開会 今岡 春樹 奈良女子大学学長 挨拶

13:10 講演

- 理系進路選択とジェンダー：日本の現状を中心として
河野 銀子 / 山形大学学術研究院教授
- STEM Education: Opportunity and Challenge for Women
Sri Peni Wastutiningsih / インドネシア・国立ガジャマダ大学
- The Making of Positive Circles: How to include and sustain Women in Computer Science
Vivian Anette Lagesen / ノルウェー科学技術大学・学際的文化研究学部教授
- Women in STEM in Norway: Promoting Gender Equality from within through Technology and Networking
Kristine Øygardslia / ノルウェー科学技術大学研究員
- NTNU's Girl Project Ada: Feminist Perspectives & Current Challenges
Jennifer Branlat / ノルウェー科学技術大学・ジェンダー研究センター准教授

14:50 休憩

15:10 コメント

- 高岡 素子 / 神戸女学院大学人間科学部
蔣 琳 / 大和ハウス工業株式会社
加藤 美砂子 / お茶の水女子大学副学長・理系女性教育開発共同機構長

15:40 ディスカッション

- 寺内 かえで / 奈良女子大学理系女性教育開発共同機構
清原 明華(数理科学科2年)・中村 恵 教諭 / 奈良市立一条高校
曾谷 音真(2年生)・藤野 智美 教諭 / 奈良女子大学附属中等教育学校

16:50 閉会 小路田 泰直 奈良女子大学副学長 挨拶

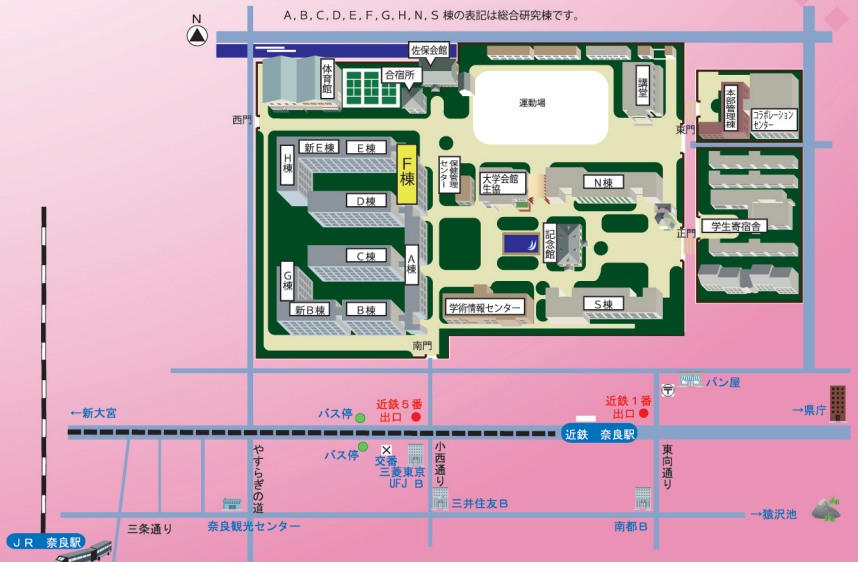
17:00 終了

17:30 情報交換会

※情報交換会に参加をご希望の方は、アジア・ジェンダー文化研究センターへ11月9日(金)までにご連絡ください。

奈良女子大学構内図

A, B, C, D, E, F, G, H, N, S 棟の表記は総合研究棟です。



予約不要
参加無料

お問い合わせ

奈良女子大学
アジア・ジェンダー
文化研究センター

〒630-8506 奈良市北魚屋東町
Tel 0742-20-3611
Mail a-gender.c@cc.nara-wu.ac.jp



フェスタ STEM
国立大学2018

理系分野のことを略して、英語でSTEM (Science, Technology, Engineering & Mathematics) ということばが使われます。どの国でもSTEM分野には女性より男性が多く、さらにジェンダー平等が実現されている国ほど、STEM分野に進む女性が少ないという結果すらあります。STEMをめぐる議論は、学校教育、進路選択、ジェンダー平等政策、テクノロジーと人間の関係などさまざまなことを想起させてくれます。このシンポジウムでは、STEMをめぐる国際比較から、女性のキャリアパス、未来の社会のあり方まで多角的な視点から議論を深め、国立女子大学が果たす役割を考えます。

河野 銀子 山形大学学術研究院 / 教授

教育社会学とジェンダー研究に立脚して、女子・女性の理科学習・理系進路に関する研究を行ってきた。中学生の理科学習の全国調査や、高校における文理選択調査、保護者調査、女性研究者支援政策の国際比較などの経験を活かして、女子の理系進路選択に関する諸事業 (NVEC、JST、内閣府等) にも携わっている。主な著書 (分担) に『理科離れしているのは誰か: 全国中学生調査のジェンダー分析』(村松泰子編著、日本評論社、2004) がある。



Sri Peni Wastutiningsih ガジャマダ大学農学部農業社会経済学科 / 教育学習センター長

農業に関連するさまざまなテーマ「農村開発、社会変化、エンパワメント、地産地消」等に関心を持っており、主なものに、「農家グループを活性化するための社会資本の役割」などの研究がある。



Vivian Anette Lagesen ノルウェー科学技術大学 / 学際的文化研究学部教授

高等教育におけるジェンダー包摂戦略、とくにコンピューターサイエンスやSTEM分野におけるジェンダー平等戦略を研究テーマとしている。現在、ソフトウェア・エンジニアリングにおけるジェンダーや、学術分野におけるジェンダーバランスに関するプロジェクトに従事している。



Kristine Øygardslia ノルウェー科学技術大学 / 研究員

双方向メディアやテクノロジーを用いて、社会のダイバーシティや包摂を進めることをテーマに、移民の生徒が社会に慣れるのにコンピューターゲームを用いること、小学校での学習にゲームのデザインを用いること、職場の研修にヴァーチャル・リアリティを用いること等について研究。また、コンピューターゲームがもつジェンダー化された側面について研究しつつ、ブロガーとしても活動。



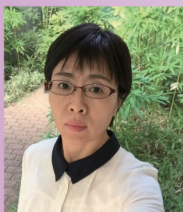
Jennifer Branlat ノルウェー科学技術大学 / ジェンダー研究センター准教授

ジェンダー理論、ジェンダーと教育、視覚メディアのジェンダーをテーマに研究。以前は、パリのOECDにおいて、ジェンダーと持続的開発を担当していた。



高岡 素子 神戸女学院大学人間科学部 / 教授

専門分野は食品科学。室内環境が喘息およびアレルギーに及ぼす影響、乳酸菌の肌に対する影響などについて研究。『新版 食べ物と健康[食品学総論]』(編著2016年、八千代出版) 他多数。



蔣 琳 大和ハウス工業株式会社 総合技術研究所 / 研究統括室研究企画グループ主任

奈良女子大学大学院修了後、大和ハウスに入社。住宅商品開発部門、海外ジョイントベンチャー部門に携り、北京駐在員、経営企画部門を経て、現在は同社の総合技術研究所で研究業務の他、主に産学連携、新卒採用を担当している。学会活動は岩崎琳という名前で活動。



加藤 美砂子 お茶の水女子大学副学長 / 理系女性教育開発共同機構長

中学・高校と生物部に所属し、生物学に強い関心を持つ。現在は、植物の秘密を解き明かすこと、陸上植物と微細藻類を対象とした研究を行う。主な著書は、『代謝と生合成 30講』(共著 2011年朝倉書店)『バイオサイエンス』(分担執筆、2007年オーム社)。